

平成25年度 事業報告

産業クラスター研究会オホーツク

麻プロジェクトリーダー 舟山 秀太郎

【麻プロジェクト】

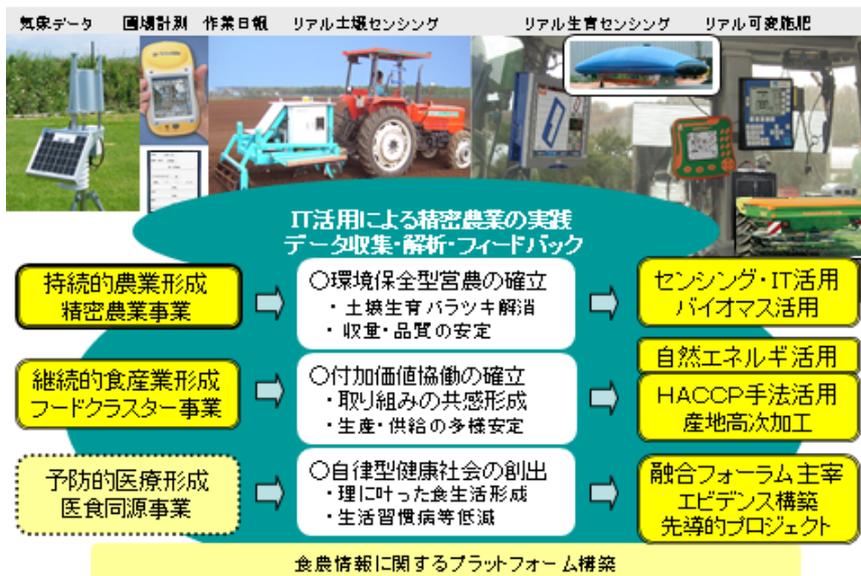
日 程	内 容	場 所
4月 4日	○第1回 麻プロジェクト会議 ・平成25年度事業計画について ・平成25年第1回道議会予算委員会における産業用大麻の質問について	北見市工業技術センター
5月 23日	○産業用大麻の事業化推進に係る北見市への要望書を提出 →6月27日：北見市産業用大麻事業化検討委員会が設置	
6月 7日	○第2回 麻プロジェクト会議 ・平成25年第1回道議会予算委員会における産業用大麻の質問について	北見市工業技術センター
7月 16日	○平成25年度 麻シンポジウム 講演「ヘンプビジネス」 講師 日大大学院研究員 赤星 栄志 氏 講演「北海道における産業用大麻の現状と将来展望」 講師 北海道ヘンプネット世話人代表 菊池 治己 氏（前上川農試場長）	ホテル黒部
7月 18日	○北海道ヘンプネット総会 ・委員である舟山麻プロジェクトリーダーが出席	札幌市
8月 8日	○第1回産業用大麻可能性検討会 ・委員である舟山麻プロジェクトリーダーが出席	札幌市
8月 23日 ～24日	○【国家戦略特区】提案募集説明会 ・舟山麻プロジェクトリーダーが出席	東京都
8月 29日	○第3回 麻プロジェクト会議 ・【国家戦略特区】への提案、及び説明会への出席について ・第1回北海道産業用大麻可能性検討会の結果について	北見市工業技術センター
9月 6日	○【国家戦略特区】へ提案 (麻産業創出プロジェクト)	(内閣官房へ提出)
9月 10日	○さとううざぶろう氏との懇談会 ・舟山麻プロジェクトリーダーが参加	東川町

日 程	内 容	場 所
9月18日	○はまなす財団【地域づくり活動発掘・支援事業】への公募 →10月27日付：採択となる	
9月29日	○【佐藤のりゆきさんと語ろう！】 ・舟山麻プロジェクトリーダーが講演・対談	北見市民会館
10月5日 ～6日	○第2回 日本麻フェスティバル in 吉野川 ・舟山麻プロジェクトリーダー・進藤幹事が参加	徳島県吉野川市
10月11日	○北海道ヘンプネット全体会議 ・舟山麻プロジェクトリーダーが出席	札幌市
10月21日	○産業用大麻新生フォーラム in ひがしかわ ・舟山麻プロジェクトリーダーが参加し、麻プロジェクトの取組みについて講演	東川町
10月22日	○旭川中小企業家同友会環境部会 麻講演会 ・舟山麻プロジェクトリーダーが出席	旭川市
11月27日	○佐藤のりゆき氏グループ懇談会 ・舟山麻プロジェクトリーダーが出席	札幌市
12月12日	○南相馬市の県外避難農家の方々からの要請で、舟山麻プロジェクトリーダーが講演	東京都
12月15日	○産業用大麻新生フォーラム イン札幌 ・舟山麻プロジェクトリーダー・五十嵐副代表・事務局が参加	札幌市
12月20日	○第2回産業用大麻可能性検討会 ・委員である舟山麻プロジェクトリーダーが出席	札幌市
3月19日	○第3回産業用大麻可能性検討会 ・委員である舟山麻プロジェクトリーダーが出席	札幌市
3月24日	○白滝麻研究会 ・舟山麻プロジェクトリーダーが参加し、麻プロジェクトの取組みについて講演	遠軽町白滝
3月28日	○中小企業家同友会別海地区会 3月例会 ・「産業用大麻の可能性を探る」を演題とし、舟山麻プロジェクトリーダーが講演	別海町

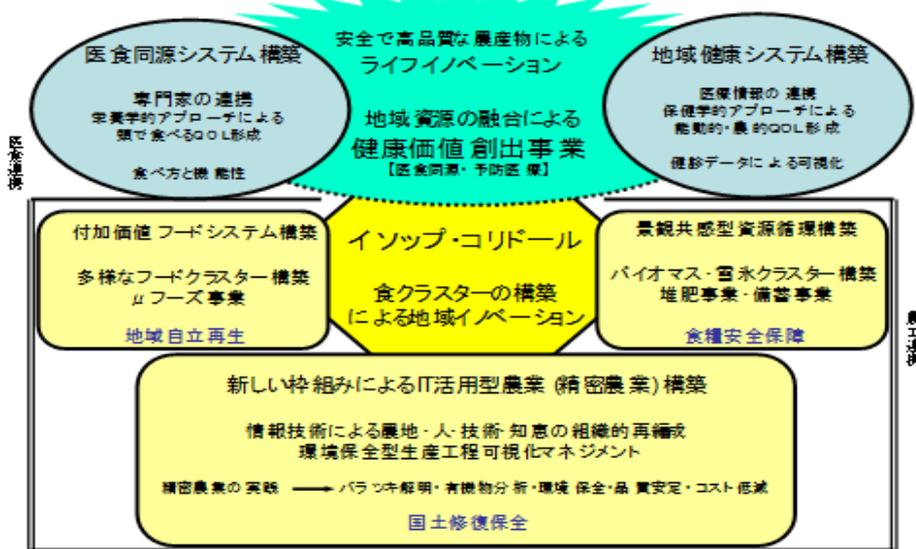
インソップコリドール クラスタ事業

- I、精密農業の開発
- II、機能性食品の開発とフードチェーンシステム構築
- III、バイオマス等地域資源の有効活用に関する調査研究
 地域資源の高付加価値化検討
 旧サロマトンネルの有効活用調査研究

インソップコリドールの事業コンセプト



インソップコリドールが考える地域ビジョン



平成25年度イソップコリドール事業

I、精密農業の開発普及

「北見の先進的な農業を学ぶことができた」と喜んでいました。

・レナタス・トゥロさん(31)

を見たタンザニアのフェスト

な肥料を自動で選ぶシステム

が小麦の色を感じ、適切な

写真Ⅱ。トラクターのセンサー

を訪問した

プライ(北見市)を訪れた



15日は農業にIoTを取り入れた機器を開発するシステムサ

組む「はまほろ」(佐呂間町)、

に農業の現場を見て回っている。

24日まで3カ月、帯広を拠点

研修生は2月16日から5月

た。

を訪れ、農業にIoT技術を取り

15の両日、佐呂間町、北見市

8カ国9人の研修生が14、

問中のガーナやタンザニアな

CA)の農業研修で十勝を訪

国際協力

機構(JICA)

佐呂間、北見

JICA研修生視察

生育センサー(Nセンサー)

生育センサーは、作物の生育状況と相関性の高い、緑色波長帯の強さを計測する光学式センサーです。計測値(SVI値)は、SPADと高い相関性があります。



Nicon Tribble GreenSeeker

地面を覆うような植生の作物に通しています。農業試験場でもテストが行われ、小麦の生育パラメータと生育センサーで得られるパラメータに高い相関性があることが実証されています。

TOPCON N-sensor



地面を覆う植生をもつものとして牧草への応用も可能です。

II、機能性食品の開発とフードチェーンシステム構築

6次産業化認定の大豆ミクロン工房を核に食クラスター形成(小麦クラスターは確立)

大豆を核にした食クラスター構築

先進的総合生産工程管理体制の広域化

農産物の高付加価値化

GIS 圃場管理 GPSリアルタイム診断 科学的作物分析 精密生産管理

大豆調整・ミクロン化・製品化



精密農業システムによる営農の実践
農商工連携-6次産業化

バイオマス資源
土壌生育診断
自然農産施設

新発想
菓子・パン類
下シロの心臓
ヨーグルト類
発酵・その他

【大豆を特別にする事業】

健康を志向する協働システムの構築
～ 医食同源 ～

戦略・・・乾燥・低温粉碎・酵素・微生物・機能・組み合わせ

大豆圃場80haの工程管理構築

大豆ドレッシング類の生産販売開始(市内・道内・海外)

- ① 地域ビジョンの達成を目的に【イソップコリドール事業推進協議体】を設立
 ビジョン達成事業計画【食のモデル地域構築計画】が農林水産省から認定される

門脇 武一	(株)イソップアグリシステム 代表取締役社長	代表
辻野 貴之	(株)システムサブライ取締役アグリプロセス事業部長	事務局長
金崎 拓也	(株)イソップアグリシステム 事業部長	会計
立田 哲朗	(株)マルキタ 代表取締役社長	監事
田中 泰	(株)ホクユウファーム 代表取締役社長	監事
村中 淳	村中農園 代表	
中野 克巳	(株)未来ファーム 代表取締役社長	
佐々木 謙一	順内食品(株) 代表取締役社長	
村井 昌裕	(株)株式会社まちづくり北見 取締役	
黒部 一哉	(株)黒部ホテル 常務取締役	
森島 繁行	知床ブランドホテル(株) 代表取締役社長	
下山 康博	(株)マリン北海道 代表取締役社長	
佐藤 尚二	北見観光開発(株) 代表取締役社長	
吉田 茂夫	北見日赤病院 院長	
有田 敬彦	北見工業大学社会連携推進センター 教授	
山本 憲市	日本赤十字北海道看護大学 准教授	
黒瀧 秀久	東京農業大学生物産業学部 教授	
菅原 優	東京農業大学生物産業学部 助教	
山田 孝雄	北見市企画財政部 企画課長	
高田 直樹	北見市商工観光部 産業連携推進課長	
武田 雅弘	北見市農林水産部 農政課長	
梅田 雅裕	北見市保健福祉部 健康推進課長	
渡辺 歌弘	北見市教育委員会学校教育部 学校給食課長	
太田 裕一	(財)オホーツク地域振興機構地域食品加工技術センター開発課長	
横田 光正	医食連携プラットフォーム(AMID)	

【食のモデル地域構築】
 【農林水産省 平成25年～平成29年】

大豆を核とした健康価値創造

- 地域資源循環型の食農連携の推進
 バイオマスによる土づくり
 農産物生産・食品生産プロセスの可視化
- 医食農連携による健康価値の形成
 機能性食品の開発・理に叶った食生活形成
 検診データを基盤としたヘルスプロモーションの形成
- 健康価値のブランディングによる地域プロモーション
 サイト構築による地域資源の融合
 共感形成によるグローバル市場創造

- ② 地域融合フォーラムの開催

大豆による健康価値の創出 ～ 大豆とガン予防の最前線 ～

日時 平成26年1月28日(火)

ホテル黒部 北見市北7条西1丁目

内容 健康価値を創出する取り組み

イソップ・コリドール事業推進協議体 代表 門脇武一 氏

大豆とガン予防の最前線

札幌医科大学医学部公衆衛生学講座 教授 森 満 氏

Ⅲ、バイオマス等地域資源の有効活用に関する調査研究

- ① バイオマス循環システムの研究 地域融合フォーラムの開催

持続可能な地域社会のデザイン ～バイオマスの利活用による地域再生～

日時 平成25年11月26日(火)

場所 ホテル黒部 北見市北7条西1丁目

内容 実践講演 木質バイオマスによるエネルギー開発

松本啓太氏 津別単板共同組合 バイオマスエネルギーセンター

パネルディスカッション ～需要の把握と安定供給の仕組みづくり～

コーディネータ 黒瀧秀久氏 東京農業大学生物産業学部 教授

コメンテータ 門脇武一氏 イソップ・コリドール主宰

パネリスト

松本啓太氏 津別単板共組バイオマスエネルギーセンター 部署長

原 悟志氏 根釧農業試験場研究部地域技術グループ 研究主幹

古俣寛隆氏 林産試験場利用部 マテリアルグループ 研究主任

内田敏博氏 北海道森林管理局 計画保全部 調査官

桑原 誠氏 ホクレン飼料部長

- ② 地域資源の高付加価値化検討



学校給食残渣の有効活用研究

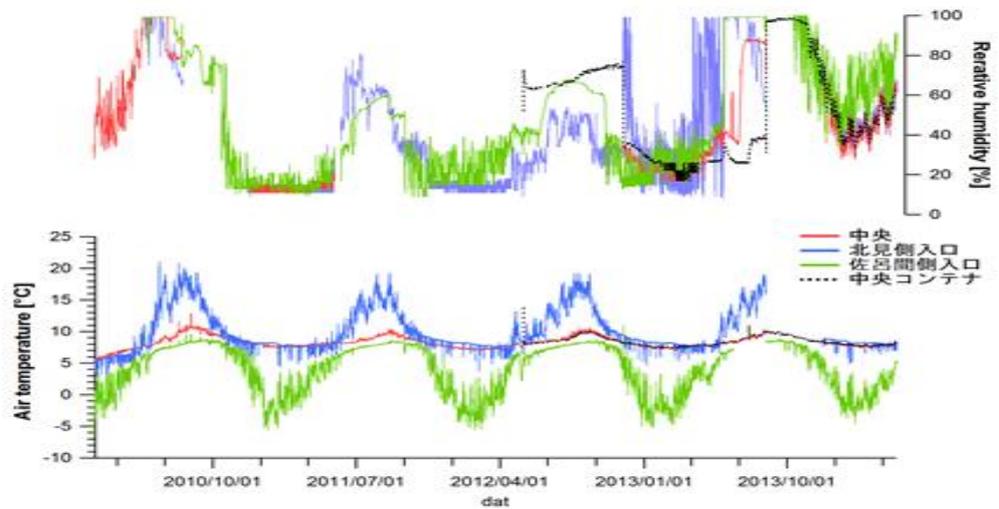


【飼料・堆肥】



白樺チップの飼料化実証研究【畜産農家・獣医師連携】

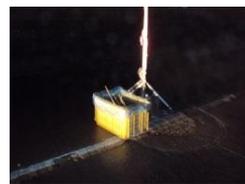
③ 旧サロマトネルの有効活用調査研究



4年経年データ



2014年4月30日 概況



観測ロガ アスバラ



大豆酢・ワイン熟成



農産物貯蔵通年調査・・・馬鈴薯・玉葱

丸大豆 (紙袋・真空袋)・大豆粉 (真空パック)

所感

- ① 温度はトンネル中央は通年一定、湿度は7月～9月に高湿度
- ② 馬鈴薯は5月末で全滅、玉葱は6月で若干発芽、7月で限界
- ③ 大豆は水分14%で搬入 紙袋は7月に19.5% 12月20% 4月14.1% 湿度70%を経た大豆は4月でカビ劣化。その他は14%程度で良好

第 15 回日本テレワーク学会研究発表大会 in 北見の報告

大会スローガン：「実践」～地域を超えて。テレワークは次のステージへ～

大会会期：2013 年 7 月 6 日(土)～7 日(日)

会場：北見工業大学キャンパス内 1 号館第一講義堂

共催：国立大学法人 北見工業大学

各地の大学教授をはじめ、企業でテレワークを研究されているテレワーク学会会員によるセッションが行われました。

今回、実行委員長を務めた田澤由利は、地方都市である北見市においても、テレワークを活用し、日本全国のスタッフと共に仕事をしていることを、テレワーカーと WEB 会議システムを利用し、デモンストレーションを行いました。





1日目：学会員が参加する個人研究発表は、午前中8件、午後9件、の計17件の発表が行われ、多彩な研究発表・報告と活発な意見交換・質疑応答が行われました

基調講演：経済評論家の勝間和代氏

「テレワークの普及に向けて『知の共有』の考え方を整理する」をテーマとする基調講演が行われました。基調講演等は、北見市近郊の一般の方々、学会員の方も含め、100名以上の方々にご参加いただきました。



今回の開催にあたり、産業クラスター、北見工業大学を始め、北見市にも多大なご協力をいただきました。



Parabo の垂れ幕も学会員のかたに見ていただきました。

視察ツアーの様子

学会終了後に北見市のバスで温根湯の山の水族館、薄荷記念館、サロマ湖を視察いただきました。





参加者の方々には、北見市でのテレワーク学会、基調講演、並びに視察ツアーと大変有意義な学会になったと評価をいただくことができました。